

シリーズ

いせさきの

老舗

VOL.3

株ナガシマ

旧西町通り（現在の三光町）の中心、西側にオフィスビルを構える株ナガシマのルーツは、長島薬局とともに今から二六〇年前にさかのぼる。八代將軍吉宗治世、江戸時代目伊兵衛は屋号を小島屋とした。市の重要文化財



昭和初期の長島紙店



三光町にある現在の株ナガシマ

戸享保年間（二七一六年～一七三二年）に絹貫問屋を開業した長島伊兵衛が現在のナガシマ、長島薬局の商祖である。三代目伊兵衛は屋号を小島屋とした。市の重要文化財に指定されている文政二年（一八一九年）完成の「河岸の石灯笼」台座に小島屋伊兵衛が寄進者の人達とともに刻字されている。元治元年（一八六四年）の古文書に伊勢崎藩御用達を務めた四代目伊兵衛が陣屋で使用する筆墨硯紙とろうそくを納めていた記録があり、歴史を感

じさせる。大正七年、現在の社長長島勝也氏祖母、長島ふ

じさんが両親と夫亡き後二十八歳の若さで商家長島の七代目となり、身命を賭し身代を發展させた。その後、長島薬局の経営を弟さんに任せ、昭和元年に息子謹一さんと現在地に「小島屋長島紙店」を設立し、現在の株ナガシマ發展の基礎を築いた。戦前、戦後を通じ「紙長島」「薬長島」の愛称で姉弟の二店が同じ西町で商いに精を出し親しまれてき

た。ナガシマは創業以来、主として紙・日用品を扱っていたが現社長が昭和三十四年からOA・オフィス家具、事務用品の販売へと業種轉換を計られた。

平成四年に新社屋も完成し、営業活動の拠点も充実した。店訓は「人と人との和を經營の根幹とする。」「お客様第一主義・良品廉価。」「変化に対応、本業重視。」と語っていた。商標の伊は商祖伊兵衛の伊の字をカタカナで表現「イ」は「矩尺」を図案化したもので、直線・直角を意味し、「実直な商法」を表明している。